

通天楼日記

横山松三郎と明治初期の写真・洋画・印刷

【二〇一四年三月刊行予定】

本書は、横山松三郎が上野池之端に開業した写真館兼私塾・通天楼での出来事を記した日記「通天楼日記」の翻刻と影印、ならびに横山松三郎自らが記した履歴書である「横山松三郎自筆手記」、門人である亀井至一・下國熙之輔らが作成した「横山先生履歴草稿」の翻刻を収載する。これらは黎明期の日本写真史・洋画史・印刷史の実態を明らかにする一級の史料群である。

横山松三郎（一八三八～一八八四）……………

近代初頭に写真・洋画・印刷などの分野で重要な足跡を残す。明治4年「旧江戸城写真帖」・明治5年「壬申検査関係写真」（重要文化財・東京国立博物館）にも関わり、文化財保護の分野でも大きな足跡を残した。

【内容】

【史料翻刻】

明治六年通天楼日記／明治七年通天楼日記

明治十二年日記／横山松三郎自筆手記

亀井至一・下國熙之輔等作成横山先生履歴草稿

【通天楼日記影印】

【論考】

横山松三郎と通天楼

——「明治六年通天楼日記」を素材として

通天楼をめぐる人々

——洋画とのかかわりを中心として

横山松三郎事績——横山家所蔵資料を中心に

（富坂 賢）

（柏木智雄）

（岡塚章子）

富坂 賢（九州国立博物館）

柏木 智雄（横浜美術館） 編

岡塚 章子（江戸東京博物館）

▼A5判・五六〇頁／定価本体一、六、四〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1729-8

◎推薦のことば◎

宮地 正人（東京大学名誉教授・幕末維新史研究者）

幕末期の日本社会は、文字情報と並んで画像情報の分野においても美術画は勿論のこと、肖像画・物産画・記録画・報道画・歴史画・絵図といった諸側面に満面開花していた。この期の日本社会はこれらの画像諸情報を強く求めるようになってきており、その要求を叶える各分野の絵師と画家が活動するようになっていたのである。このように時代を押える時、幕末明治初年の人々が「彷彿無二」の洋画並びに写真に向けたあの熱いまなざしがおのずと理解されるだろう。

複製作成技術を内包する写真と写真技術の導入及び展開は、このような広汎な画像情報要求社会の大海に落された一滴の試薬であり、この試薬によって、画像情報社会はドラスティックに変貌していった。変化を典型的に示す場が文明開化期の東京、示す二人の写真師が上野彦馬の弟子内田九一と下岡蓮杖の弟子横山松三郎、その客観的な唯一無二の「実験記録」となってくるのが、横山写真館の、この『通天楼日記』にほかならない。どの方面から、いかなる写真撮影要求がなされたか、写真技術伝習システムはどのような形をとったのか、写真師社会の実態はどうだったか。但し横山松三郎は、洋画の開拓者高橋由一や写真史に名を残す島薺谷と同様、没するまで確平たる洋画家でありつづけた。画像の近世的至福性と統一性を客観的に破壊する写真技術の先駆者たる横山が、なおかつ洋画にしか求め得なかった迫真性を起える美とはなんだったのか、これら画像資料を歴史的に考える上での不可欠な史料として私は本書を推薦する。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 Tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)			
冊数	冊	通天楼日記		本体16,400円(税別)	ISBN978-4-7842-1729-8		
お名前			tel				
			e-mail				
ご住所	〒						
送本方法	☐ 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） ☐ 代 引（書籍代＋送料を現品と引き替えにお支払い）		本書HPのQRコード 書店番線印				

動物・植物写真と日本近代絵画

中川馨著

今日の情報伝達には欠かせない映像メディア。しかし欧米諸国と比較して、わが国におけるその歴史的考察はいまだ不十分である。本書では、「明治後期から太平洋戦争以前の日本における動物・植物写真」を考察範囲とし、先行研究の少ないそれらの写真集の歴史にもスポットをあてて概説する。またその「動物・植物写真集」が、美術資料として担った役割を解き明かすことにより、近代日本の「写真」と「絵画」との関連性を論究する。とくに、本書で詳しく取り上げる京都出身の動物・植物写真家、岡本東洋（1891-1969）撮影の写真・写真集群や資料から、多彩な近代美術家たちと写真家との交流を浮き彫りにし、その関連性を鮮やかに導き出す。関連図版94点を掲載。

▶A5判・256頁／本体 5,000円（税別） ISBN978-4-7842-1598-0

※画集 下村為山

鴻池楽齋編

松山に生れ、洋画から出発し、正岡子規の俳趣味に洗練され、自得発明した俳画で名を成した下村為山。本書は洋画・俳画（スケッチ・軸・画帖）・書の名品の数々を大型図版で紹介し、総説・解説、落款、印譜・年譜を付す。

▶B4判変・102頁／本体 18,000円（税別） ISBN4-7842-0837-2

熊本県の美術

熊本県立美術館編

熊本県ゆかりの作家40人、99点をオール・カラーで紹介、総説・作家解説・作品解説・略年表を付す。【作家名】佐々布瑠石／雲林院蘇山／梶山九江／堅山南風／間部時雄／大津逸次／大森南二／伊藤直臣／山田隆憲／田代順七／牛島憲之／海老原喜之助／野田英夫／石井了介／浜田知明／田島亀彦／松原象雲／松本喜三郎／増村益城 他

▶B4判変・240頁／本体 19,417円（税別） ISBN4-7842-0872-0

京都 伝統工芸の近代

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編

京都における美術・工芸がどのような変容をとげて現代にいたっているのか。大きく「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ概観する。口絵・関連地図や、各節には一目で年代を確認できる年表や関連図版を付し、視覚的にわかりやすく解説。

▶A5判・300頁／本体 2,500円（税別） ISBN978-4-7842-1641-3

日名子実三の世界 昭和初期彫刻の鬼才

広田肇一著

鬼才と呼ぶにふさわしい鋭い才能で、日本近代彫刻史に確かなページを記した日名子実三の足跡を、残された作品と資料によって検証し、日名子芸術の全貌を紹介する。巻頭には大型カラー図版を配し、人体像を中心とした彫像のほか、各種のメダルや大型の記念碑など従来の彫刻の範疇を越えた多岐にわたる活動を総覧できる決定版。

▶B5判・170頁／本体 2,000円（税別） ISBN978-4-7842-1436-5

近代の「美術」と茶の湯 言葉と人とモノ

依田徹著

明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか？千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。美術作品と茶道具の境界線を問う、革新の一書。

▶A5判・332頁／本体 6,400円（税別） ISBN978-4-7842-1693-2

萬象録 高橋藩庵日記 [全9巻]

大濱徹也・熊倉功夫・筒井紘一校訂

近代茶道鼓吹の第一人者とされた実業家の高橋義雄（藩庵）。本書は、その藩庵が記した明治45年5月から大正10年6月までの日記である。政治・経済・文化・美術・芸能など多岐にわたる事柄、更には斯界人との交友を、明快・的確な筆さばきと鋭敏な時代感覚で綴った一大メモワール。最終巻には解説・総索引を付す。

▶A5判・平均450頁／揃本体 66,000円（税別） ※最終巻は未刊

大分県の実術

広田肇一編

大分県ゆかりの作家33名、103点をオール・カラーで紹介、総説・作家解説・作品解説・略年表を付す。【作家名】田能村竹田／高橋草坪／帆足杏雨／田能村直入／福田平八郎／高山辰雄／諫山麗吉／藤雅三／江藤純平／荒井龍男／佐藤敬／江藤哲／宇治山哲平／糸園和二郎／武藤完一／武田由平／朝倉文夫／日名子実三／山本常一 他

▶B4判変・240頁／本体 19,417円（税別） ISBN4-7842-0815-1

山口県の実術

榎本徹編

山口県ゆかりの作家44名、109点をオール・カラーで紹介、総説・作家解説・作品解説・略年表を付す。【作家名】雪舟等楊／雲谷等顔／雲谷等益／小田海僊／森寛斎／松林桂月／永地秀太／桑重儀一／小林和作／河上左京／香月泰男／河内山賢祐／中野四郎／大和松緑／坂倉新兵衛／有馬光城／福田勝治／林忠彦／福島菊次郎 他

▶B4判変・290頁／本体 19,417円（税別） ISBN4-7842-0886-0

近代工芸運動とデザイン史

デザイン史フォーラム編／藤田治彦責任編集

「近代工芸運動」という視点を導入することにより、「近代デザイン史」という視点では抜け落ちている、各国における芸術分野での歴史・重要な動向を様々な点から解き明かす。【内容】ラファエル前派からアーツ・アンド・クラフツ運動へ／フランス近代工芸のあけぼの／イタリアと近代工芸運動／ドイツの近代工芸運動 他

▶A5判・336頁／本体 2,900円（税別） ISBN978-4-7842-1438-9

応用美術思想史導入の歴史

天貝義教著

ウィーン博参同より意匠条例制定まで「美術を工業に利用すること、即ち実用と佳美を兼ねしむるに在り」と表現された応用美術。ウィーン万国博覧会への日本初参加から二度の内国勸業博覧会を経て、「デザインの法」である意匠条例が制定されるまで、応用美術思想がいかに学習され、明治期の美術・工芸界において指導的役割を果たしていったかを明らかにする。

▶A5判・410頁／本体 7,500円（税別） ISBN978-4-7842-1505-8

近代数寄者のネットワーク

齋藤康彦著

茶の湯を愛した実業家たち 高橋義雄、根津嘉一郎、小林一三…。彼ら近代実業家は経済面では激しく争うも、互いに茶道を愛し、交流が深められた。近代実業家と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出するものである。

▶A5判・308頁／本体 4,000円（税別） ISBN978-4-7842-1603-1

一茶会記をひもとく―逸翁と茶会

逸翁美術館編

2012年春に開催された逸翁美術館特別展覧会の展示図録。逸翁（小林一三）は40代前半頃、茶道の師となる表千家の生形貴一宗匠と出会い、本格的に茶人としての道を歩み始めることになる。茶の湯との出会いや、近代数寄者としての歩みを、残された茶会記をひもときながらオールカラーで明らかにしていく。

▶A4判・92頁／本体 1,000円（税別） ISBN978-4-7842-1626-0

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。